

## 付 属 資 料

- 1．団長所感
  - 1 - 1 和 文
  - 1 - 2 英 文
  - 1 - 3 中 文
  - 1 - 4 ミャンマー語
- 2．対処方針案会議資料
  - 2 - 1 第 1 回
  - 2 - 2 第 2 回
  - 2 - 3 第 3 回
- 3．調査団現地調査記録
  - 3 - 1 大使館との打合せ（2月6日）
  - 3 - 2 国境省との打合せ（2月6日）
  - 3 - 3 ウ・ポー・チャー・シン主席との会談（3月9日）
  - 3 - 4 国境省でのラップアップ会議（3月11日）
  - 3 - 5 団長による国境省への説明資料
- 4．プロジェクト形成調査帰国報告会資料
- 5．その他
  - 5 - 1 プロ形調査結果一覧
  - 5 - 2 Short Note of Project Performance 1999 to 2004



## 1. 団長所感

1-1 和 文

2004年03月09日

於：ラウカイ

### 「コーカン特別区麻薬対策・貧困削減プログラム」 プロジェクト形成調査団所見及び今後の対策への提言

コーカン特別区麻薬対策・貧困削減プロジェクト形成調査団（団長：JICA アジア第一部長 佐藤 幹治）は、ソバプロジェクトの評価と評価結果を踏まえた今後の実施計画（案）の作成、並びにコーカン特別区における麻薬対策・貧困削減を実現するために必要なプロジェクトを形成するためのデータ収集を目的として、平成16年2月6日から平成16年3月14日までミャンマーにおいて調査を実施した。上記調査の結果得られた所見及び今後の対策への提言の要約は以下のとおりであり、その詳細及び本件実施に際しての留意事項は別紙1, 2, 3のとおりである。

なお、この文書は、あくまでも調査団限りの現時点での所見を伝えるものであり、JICA または日本政府としての組織的な決定ではない。今後、これを元に、関係者の間で実施に向けて必要な協議を行っていくための基礎資料として活用戴きたい。

#### 記

（調査団所見及び今後の対策への提言要約）

#### 1. ソバプロジェクトの評価と評価結果を踏まえた今後の実施計画（案）

ソバプロジェクトはケシ栽培が盛んであったコーカン特別区及び周辺地域（チャウメ、ムセ、クッカイ）において、ケシの代替作物として日本産ソバ品種を導入することを目的として実施された。

約5年間にわたる協力の結果、周辺地域においては、住民組織を通じたソバ栽培技術の定着などの成果が見られ、代替作物としてのソバは概ね定着したと評価できる。コーカン特別区においては、2003年にケシ栽培撲滅に成功し、ソバ栽培もある程度定着し、一定の収入補助として効果を挙げている。しかしながら、ケシ栽培撲滅による住民の家計への影響は大きく、現在はソバ栽培によって得られる収入のみでは住民の生活を支えることが困難であることが確認された。また、換金作物としてのソバ市場が必ずしも十分に開拓されていないことや道路が十分整備されておらずアクセスが困難なため、現地における集荷を始めとする一連のソバ栽培のオペレーションに支障を来しているといった課題が残されている。

これまでの協力を通じて代替作物としての一定の適性が確認されたソバがコーカン特別区に定着するか否かを、播種から集荷、流通・販売までの一連の流れに関する実証調査・技術指導・試験を通じ、確認するまでの間は、ソバに対する支援を継続することが必要である。

したがって、これまでの協力の経験及び今回の調査を通じて確認された課題を踏まえて、今後のソバプロジェクトの活動内容及び実施手法を見直す必要がある。

#### 2. コーカン特別区麻薬対策・貧困削減プログラム

コーカン特別区においては、住民が少なくとも自立的に生活していける方途が見つけられることを目標として、ソバのみならず、他のケシ代替作物普及も含めた農業開発、基礎インフラ整備、Basic Human Needs（教育、保健）の充足等、地域住民の生活を安定させるための包括的な支援を行う必要がある。

この支援を実施する上での基本的考え方は、住民が毎年確実に生活の改善を実感できるアプローチを取ること、日本側の支援が終了したあと、ミャンマー政府、コーカン特別区、コーカン特別区住民がそれぞれ必要な役割を果たして、自立的・継続的に地域の開発を行っていくことのできる方策を取ることである。

以上

## 別紙1 ソバプロジェクトの評価結果及び評価結果を踏まえた今後の実施計画（案）

### (1) 調査結果・課題

- (ア) コーカン特別区および周辺地区において、日本産ソバ品種の栽培技術が一定程度普及した。
- (イ) 特に周辺地区（チャウメ、ムセ、クツカイ）においては、栽培技術の定着や住民組織による栽培、集荷等の管理において発展が見られた。
- (ウ) コーカン特別区においては、栽培技術の普及や品質管理などの技術が十分移転されておらず、自立的にソバ栽培を行うには至っていない。
- (エ) ソバは政府による買取制度及び市場の確保が前提となるものの、ケン代替換金作物として適当であることが確認された。
- (オ) ソバの栽培時期はケン栽培時期と重なる上、栽培期間が短いことからキャッチクロープとしても活用でき比較優位性がある。
- (カ) ソバを代替換金作物として栽培し続けるためには加工品の開発、市場の拡大等の課題が残されている。

### (2) 実施戦略

- (ア) 3年間をコーカン特別区におけるソバ栽培定着のトライアル期間と位置けて播種から集荷、流通・販売までの一連の流れに関する実証調査、試験を実施し、ソバ栽培がコーカン特別区に定着する可能性を確認する。
- (イ) プロジェクト対象地域については農業環境および地理的条件に基づきソバ栽培の規模及び地域を再検討する。

### (3) 実施手法

#### (ア) 実施主体

実施主体はミャンマー及びコーカン特別区側とする。日本側は、今後、ミャンマー及びコーカン特別区側が自主的に事業を展開できるように支援する。

#### (イ) カウンターパート(C/P)

#### (ウ)

国境省 (Natala)	プロジェクト実施主体
MAS (Myanmar Agricultural Service)	技術的サポート
コーカン特別区	プロジェクト共同実施主体
コーカン特別区農民	ソバ栽培主体

#### (エ) 対象地域

- (a) 「モデル地区」(ロンタン、ターシェータン)  
ソバ栽培技術の普及を図るために、集中的に研修を行う地区を選定して、パイロット地域の農民代表を招聘して、実証的に研修を行う。
- (b) 「パイロット地域」(その他のコーカン地域)  
モデル地区で行った研修の成果を活かし、農民代表が自らの土地に戻って実際にソバ栽培を行う地域。
- (c) 「モニタリング地域」(チャウメ、ムセ、クツカイ)  
住民が主体的に実施し、モデル及びパイロット地域の自立発展の可能性を検証するために、C/Pが日本側の支援を受けてモニタリングを実施する。

(d) 「調査開発・研修機関」

作付計画の検討及び当該地域の農業技術者の育成のために、MAS ナリ農場を用いて調査研究及び研修を行う。また、コーカン側施設（代替作物展示圃場等）との連携を行う。

(4) 活動内容

(ア) 栽培計画の策定

毎年度の作付面積、作付場所等について、国境省及びコーカン特別区が適切な計画を策定できるよう技術支援を行う。

(イ) 栽培・種子品質管理

肥料による高収量の栽培を目的とした技術の定着を図る。農民代表がモデル地区及び MAS ナリ農場での研修栽培を通じて、栽培及び種子品質管理について技術を習得する。農民代表は、それぞれの村に帰って、他の農民への技術移転を行うとともに、栽培の拡充に関する中心的な役割を担ってもらうことを意図する。農民代表が村に帰って技術移転を行う際には、自給作物との理想的な作付計画の検討を行う。また、モデル地区での研修の一環として、収穫後種子の取り扱い（種子調整、貯蔵）に関する技術の定着を図る。

(ウ) 集荷・種子品質管理

集荷及び集荷後の選別技術、品質管理技術に関する指導を行う。その際には日本向け輸出の品質を確保するために必要な手法について習得する。

(エ) 消費・加工

① コーカン特別区及び周辺地域内消費の拡大

主食代替としてのソバのコーカン特別区及び周辺地域内消費の拡大を検討する。

② ミャンマー国内外市場開拓

そば粉、焼酎、麺、お菓子などのソバ加工品について、ミャンマー国内の有望な工場に試験的に製造させ、国内外市場開拓の可能性を探る。

(オ) 流通・販売（輸出を含む）

(エ)で検討した加工品の海外、国内市場での流通、販売のために取るべき方策を検討する。消費者の嗜好、広告・宣伝、ミャンマー政府が取りうる措置（優遇措置、行政指導など）等を実証的に検討して、市場を確保するための最大限の方策を検討する。

(カ) インフラ整備

実験圃場や研修施設などソバ栽培、加工等に関する技術の普及に必要なインフラを整備する。

(1) 調査結果

- (ア) ケシ栽培撲滅後、著しく現金収入が減少したために基本的な生活を維持できない貧困層が増加している。
- (イ) ソバは換金性のある代替作物として一定の役割を果たすものの、急激に環境が変化したためにソバによる収入のみでは従前の生活を維持できておらず、貧困層では2004年雨期(5~6月)を前に食糧不足が既に深刻となっている。
- (ウ) 開発の基本となる道路、給水等の基本インフラが整備されていない。
- (エ) 住民の多くが基礎教育を受けておらず、またケシ栽培撲滅後、就学児童数の減少、学校の閉鎖が見られる。
- (オ) 栄養・衛生状態の悪化に起因すると考えられる疾病が増加している(マラリアによる大量死など)。

(2) プログラム案

現時点で想定されるプログラムの内容は以下のとおりである。各々の活動内容、規模、実施手法等の詳細については、今後派遣される第2次プロジェクト形成調査団において検討する。

(ア) ケシ栽培撲滅後の新たな農業生産体系の構築

- (a) まずは主食となる主要作物及び換金作物を可及的速やかに一定の単位面積収量が上がるような形で作付けがなされることを目的に、栽培物を特定し、標高の異なるソバプロジェクトのモデル地域及び実験圃場において試験栽培を開始する。
- (b) MASとコーカン特区からなる普及チームを設立し、モデル地域と実験圃場において農民代表への研修を実施する。
- (c) 調査研究及び研修に必要な施設は、ミャンマー側の協力を得て基本的には既存の施設を活用するが、新設乃至増設が必要なものは日本側での対応を検討する。

(イ) インフラ整備

- (a) 当該地域の開発にあたり最も喫緊に整備が必要なインフラは、道路と給水施設(生活用水及び農業用水)である。
- (b) 道路については、我が国無償資金協力で一部を支援したラオカイ-コンジャン間の道路の完工が喫緊の課題であるところ、未整備である残り62kmの早期完成を図る必要がある。
- (c) これらのインフラ整備を行い、将来のプログラム形成と効率的実施のためには、最新の基本的地形図が必要となる。また、開発基本データ(農業、水産業、林業、畜産、社会施設、土壌、住民社会データ等)も把握しておく必要がある。
- (d) モデル地域での活動およびその後のパイロット地域での普及活動において、必要な施設がある場合は、関連施設として試験的に住民参加または対象地域の協力を得て建設し、他の地域への普及を図る方策とする。

(ウ) 教育（公教育およびノンフォーマル教育）

就学率及び識字率いずれを取っても極めて低く、基本的人権としての「全ての人に教育を（Education for All）」理念を追求する努力をすべきである。教育の普及を通じて、コーカン特別区住民がミャンマーの基本的な公共サービスを楽しむことができるようになることを目的として、次のような支援を行う。これらの支援は教育省の協力を得て実施する。

- (a) 就学率を向上させるために、教員派遣、カリキュラム・教材開発、学校建設等の教育支援を行う。
- (b) 子どもが登校するインセンティブが働く方策を検討するとともに、地域住民による学校運営を行える方策（地元出身者の教員養成等）も検討する。
- (c) 学校には、コミュニティセンターの機能を付加し、住民全体の知識、社会参加を促すプログラムとする。

コミュニティセンター機能：

未就学児の識字教育、成人に対する識字教育（母語、コーカン語、ミャンマー語）、保健教育（栄養学、調理（ソバを含む）、縫製等の簡単な職業訓練

(エ) 保健医療

- (a) 緊急的措置としてのマラリア対策、予防接種などの対策についても検討する。
- (b) 栄養・衛生状態の劣悪さによる疾病の減少を目指し、栄養・衛生改善、保健医療サービスの拡充を図る。
- (c) 郷、村への病院・保健所の設置、既存施設の機能を強化する。なお、アクセスの困難さを想定して移動クリニックの導入も検討する。
- (d) コミュニティセンター等を通じた保健・衛生教育、栄養教育などの教育を実施する。
- (e) これらの支援は保健省からの協力を得て実施する。

### 別紙3 本件実施に当たっての留意事項

(1) 三者による合同調整委員会の設置

本プログラムを効果的・効率的に実施するためには、これまで以上にミャンマー政府およびコーカン特別区及びその住民の協力が必要不可欠である。この地域の開発はミャンマー政府、コーカン特別区の協力関係をより一層強化することが事業成功の前提条件となる。そのために双方の役割を調整する枠組みやさまざまな決定事項に関する透明性の高さが求められるので、ミャンマー政府、コーカン特別区及び日本側という三者の意見を調整する機能を有した委員会を設置することが望ましい。また、現場レベルにおいても、三者が合同でチームを組み事業を実施していく枠組作りが重要である。

(2) プログラムの自立発展性に配慮した協力体制・内容の検討

日本側がこの地域の支援を終了させたあとのミャンマー及びコーカン特別区側での持続的な実施を当初から計画していく必要がある。このため、地域住民の育成強化はもちろんのこと、コーカン特別区の人材育成、組織制度・機能の強化を行うことも中長期的な視点から重要であり、コーカン特別区の人材をプログラムに積極的に参加させるシステムとする。

(3) ソバプロジェクトの取扱い

ソバプロジェクトについては、今後3年間で一定の区切りをつけ、自立発展の可能性が確認される場合は、包括的なプログラムの農業分野の1コンポーネントとなることを見込まれる。なお、今後3年間については、ミャンマー政府としての財政的・組織的な負担は、これまでと同様のものとなる可能性がある。



**Findings and Recommendations**  
**prepared by the Project Formulation Study Team**  
**for Eradication of Opium Poppy Cultivation and Poverty Alleviation Programme**

The Project Formulation Study Team (hereinafter referred as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Mikiharu SATO, Managing Director, Regional Department 1, JICA, visited the Union of Myanmar from February 6 to March 14, 2004, for the purpose of evaluating and reviewing of implementation plan of upcoming buckwheat project as well as fact findings for the project formulation of "Eradication of Opium Poppy Cultivation and Poverty Alleviation Programme" in Kokang Special Region No.1.

The summary of the findings and recommendations for necessary future actions prepared by the Team are as follows, and details and the special remarks are attached as Annex 1, 2, 3.

These are the provisional recommendations for the support programme in Kokang area based on the fact and information our study team has so far collected, thus it would be highly appreciated if the authorities concerned can understand that this is not a final proposal from the Government of Japan or JICA, thus the further perusal and study by the said bodies will be made in due course of the time. It will be further appreciated that the authorities concerned would be familiar with this documents and future discussions can be made based on this documents.

**1. Evaluation results and reviewing implementation plan of buckwheat project**

Buckwheat project was launched for the purpose of eradicating opium poppy cultivation by introducing the Japanese variety of buckwheat as a substitute crop into Kokang Special Region No.1 and neighbouring areas (Kyaw Me, Muse, Kutkai) where opium poppy were widely cultivated.

As a result of 5 year activities, in Kyaw Me, Muse and Kutkai, cultivation of buckwheat managed by community based organizations has been successfully established. On the other hand, in Kokang Special Region, the Myanmar Government and Kokang Special Region successfully eradicated opium poppy by 2003, and buckwheat cultivation has been almost established and helped farmers get some amount of income. However, these days farmers cannot sustain their livings only by the earnings from buckwheat cultivation, due to the sudden loss of their cash income from opium poppy cultivation. This project also entailed some constraints such as marketing of buckwheat and its products as well as logistic operation in remote area.

Continuous support may be necessary until when Kokang Special Region can cultivate buckwheat by themselves, which is considered to be appropriate to a certain extent as a substitute crop of opium poppy, and also manage a series of activities from cultivation to marketing in collaboration with the Myanmar Government. In case we continue our support to Kokang, it is necessary to review the implementation plan and system of the future project based on the lesson we learned through the past five (5) years experiences.

**2. Eradication of Opium Poppy Cultivation and Poverty Alleviation Programme**

At the same time, in Kokang Special Region, external assistance is needed to promote overall social development, including agricultural development (not only buckwheat cultivation but also other substitute crop introduction), infrastructure development and Basic Human Needs satisfaction (education and health), so that Kokang people can sustain their livings by themselves.

Our basic concepts of this programme are to raise the peoples' living standards from under survival level to the level where the people can be surely aware of improvement of the daily life and to draw a future picture in which the Myanmar side can coordinate the domestic stakeholders (central government, Special Region No.1 and the Kokang people) and pursue the sustainable development by themselves without the Japanese assistance.

Laukai, March 9, 2004

## **Annex I Buckwheat Project (Evaluation of the activities so far and Review of the Implementation Plan)**

### **(1) Findings**

- a) Cultivation techniques of a Japanese variety of buckwheat have been taken root in Kokang Special Region No.1 and neighbouring areas (Kyaw Me, Muse and Kutkai).
- b) In Kyaw Me, Muse, Kutkai, cultivation of buckwheat managed by community based organizations has been successfully established.
- c) In Kokang Special Region No.1, technology transfer on cultivation techniques and quality control of buckwheat are yet to be completed and it may take some more time for farmers to manage buckwheat cultivation by themselves.
- d) Buckwheat is effective as a substitute crop of opium poppy on the condition that the Government of Myanmar maintains purchasing system and stable market is secured constantly.
- e) Buckwheat is also competitive as a catch crop compared to other crops because its cropping period is just two (2) months and overlaps with opium poppy cultivation season.
- f) Several challenges should be tackled for continuing buckwheat cultivation in terms of development of processed goods and explore further market.

### **(2) Project Concept**

- a) The first three years is regarded as a trial phase, which will verify the possibility of establishing buckwheat farming system in Kokang Special Region. Necessary surveys and pilot project throughout the whole processes from cultivation to marketing will be carried out.
- b) The Project target place and area should be re-examined from the aspect of agro-environmental and geographical conditions.

### **(3) Means and Inputs**

- a) **Subjective Body**  
It is emphasized that both the Myanmar and the Kokang Special Region side take an initiative and Japanese side mainly support and facilitate the said bodies' efforts.
- b) **Expected counterparts**

Natala	Main implementing body
MAS	Technical support
Kokang Special Region	Joint implementing body
The Farmers in Kokang Special Region	Buckwheat farmers
- c) **Targeted Area**
  - 1) **Model Area (Lontan, Tarshwetan)**  
For the purpose of dissemination of buckwheat cultivation skills, intensive trainings will be conducted for leading farmers from the pilot areas below.
  - 2) **Pilot Area (Other Kokang area)**  
The trained farmers are expected to manage buckwheat cultivation in the pilot area (their home places, possibly).
  - 3) **Monitoring Area (Mong Koe, Kutkai, Kyaw Me)**  
In the monitoring areas, the farmers will cultivate buckwheat independently. Project counterparts will monitor the outcome of buckwheat cultivation in terms of sustainability with a support from the Japanese side.
  - 4) **Research & Development and Training Facility**  
The Project will conduct R&D activities and provide training programs at the MAS farm in Nali to study cropping patterns and to foster agricultural engineers. Furthermore, the collaboration with the Kokang Special Region (The exhibition farm for substitute crop) will be encouraged.

#### (4) Contents of the Project

- a) Drawing up of annual cultivation plan  
Technical advice will be provided for Nataka and Kokang Special Region to decide appropriate annual plan of cultivating area.
- b) Cultivation, harvesting, drying and cleaning of seeds and storage  
Objective of this item is to transfer technology on cultivation for increasing the yields with fertilizers. Leading farmers from pilot areas will acquire knowledge and skills of cultivating and harvesting through on practical training in model areas and MAS Nali farm. Those participants are expected to train farmers at their home places and play a major role for the future expansion of buckwheat cultivation. Furthermore, the said farmers are expected to make an appropriate cropping pattern plan among buckwheat and other subsistence crops. As a part of training in model areas, leading farmers will also learn post harvest treatment (drying, cleaning and storage).
- c) Collection and seed quality control  
The knowledge and skills regarding collection, processing after collection and seed quality control will be transferred. The technology to maintain the export quality to Japan will be also provided.
- d) Marketing and Processing
  - ✓ Expansion of consumption in Kokang Special Region and neighbouring areas  
In case that the Government of Myanmar maintains purchasing volume limitation, expansion of consumption in Kokang Special Region and neighbouring areas as substitute staple food will be considered.
  - ✓ Find new domestic and foreign market  
Feasibility of shipping of processed buckwheat goods, buckwheat flour, buckwheat alcohol (Soba Shochu), noodles and buckwheat pastry, to domestic and foreign market will be examined in the entrusted private companies with facilitation from the Government of Myanmar upon necessity.
- e) Marketing and Sales (Export)  
Necessary measures should be examined empirically the possibility of securing maximum domestic and foreign market for shipping above mentioned processed goods, taking into consideration of consumers' preference, advertisement and public relations, and other necessary measurements by the government. These feasibility studies will be done by entrusted private company.
- f) Development of basic infrastructure for pilot cultivation and training  
Experimental farm and training facilities will be constructed for dissemination of cultivation and processing technique.

## **Annex II Comprehensive Programme (Eradication of Opium Drug Cultivation and Poverty Alleviation Programme)**

### **(1) Findings**

- a) More farmers suffer severe poverty because of losing cash income after banning of cultivation of opium poppy.
- b) Although buckwheat plays a certain role of substitute crop of opium poppy, farmers cannot keep their living standard only with earnings from buckwheat cultivation because of sudden change of circumstances. Some families are afraid whether they can secure their staple foods till the beginning of rainy season (May ~ June) in 2004.
- c) In Kokang area, basic infrastructures for the basis of regional development, such as road and water supply, have not been well developed.
- d) Most people haven't had a chance to receive basic education. In addition, after banning of cultivation of opium poppy, enrolment rate of primary school has drastically decreased and some schools are closed.
- e) Infectious diseases caused by malnutrition and insanitary living conditions have been increased.

### **(2) Recommendations for the comprehensive programme**

The followings are our current recommendations for the comprehensive programme. Although the details of project activities and scale of each activity should be discussed and decided at the second-stage of project formulation study, the Team would like to share the following project concepts for the said programme.

- a) Improvement of farming system
  - 1) It is necessary to identify promising self-sufficient crops and to launch pilot planting in model areas with different altitude and pilot farm (MAS Nali farm) for the purpose of cropping staple foods and cash crop as soon as possible so that farmers can get higher yields per unit area.
  - 2) Training opportunity is provided to leading farmers at model area and pilot farm by a team composed of staff from MAS and Special Region No.1.
  - 3) Existing facilities will be used for the said training. The Japanese side may consider the additional support for the development of such facilities upon necessity.
- b) Infrastructure
  - 1) Most keen issue for development of this area is construction of infrastructure, especially road and water supply (water for agriculture and daily life). The road construction between Laukai and Konkyan, which was partly supported by the Japanese Grant Aid and the 62km is outstanding, should be completed as soon as possible.
  - 2) It is necessary to obtain the latest topographical map of Kokang area and basic development data (agriculture, fisheries, forestry, animal husbandry, common facilities, soil, social and cultural situation, and so on) for the said infrastructure development as well as future formulation and effective implementation of the comprehensive programme.
  - 3) Participatory approach should be applied to build necessary facilities in the target area. In this approach, involvement of residents in the community is respected; at the same time this participatory methodology will be a model of development in other Kokang area.
- c) Education (Formal education and Non-formal education)
  - 1) Principally, the Team recognizes the utmost necessity to make an effort pursuing the ultimate goal of "Education for All (EFA)" as basic human rights. It is necessary to establish education system enabling Kokang people to access public social services provided by the Government of Myanmar.
  - 2) It is necessary to consider several measures to improve access to education (e.g. Construction of schools, development of curriculum and textbooks reflecting special needs of the Kokang area, teacher assignment, local teacher development, and so on).
  - 3) At the same time, we will consider participatory approach in management of schools by local

communities.

- 4) Schools are also expected to function as a community center to provide useful knowledge and to raise awareness of social participation. Community centers will conduct following activities;
    - Literacy education to pre-school and out-of-school children
    - Adults Literacy education (Myanmar, Kokang and Chinese)
    - Health-care education (Nutrition, cooking etc.)
    - Basic vocational training (Sewing, etc.,)
  - 5) Cooperation from the Ministry of Education will be essential and inevitable to conduct the above mentioned activities.
- d) Health
- 1) It is necessary to examine emergency assistance (e.g., malaria disease control and vaccination).
  - 2) We aim to decrease diseases due to malnutrition and insanitary environments by improving the nutritious and hygienic levels and quality of health care services.
  - 3) It is preferable to establish hospitals, clinics or health dispensaries and health care centers in each village tract as well as at the community level while enhancing functions of existing facilities. Considering the constraints of accessibility, the introduction of mobile health care service may be examined.
  - 4) Education on nutrition, health and hygiene is to be provided at the community centers.
  - 5) Cooperation from the Ministry of Health will be essential and inevitable to conduct the said activities.

### **Annex III Special remarks on the implementation of the Programme**

- (1) Without more inputs than ever provided from the Myanmar side (Central Government), Special Region No.1 and its residents, this programme could not be completed successfully or efficiently. Thus, enhancement of cooperation among the stakeholders (central government, Special Region No.1 and its residents) is a key to success for the development in Kokang region. In addition, it is desirable to establish a tripartite joint coordinating committee to coordinate the argument of interests and maintain transparency of decision making process. Moreover, the same kind of on-site coordination framework would be useful to implement this programme smoothly.
- (2) Three sides should design this programme be self-sufficient and sustainable as the Myanmar and Kokang sides can deal with self-reliantly, because the Myanmar and Kokang sides are required to continue the development efforts after the termination of the cooperation from the Japanese side. In this regard, not only to capacity building of local people but also to strengthen human resource development and capacity development are essential in the medium and long term. Therefore, it is a must to encourage Kokang people's participation to this programme.
- (3) The Japanese side's support to the buckwheat project would last for another three (3) years. After the period, if the buckwheat cultivation is regarded as sustainable in Kokang Special Region, the buckwheat project will be merged with the agricultural project in the said comprehensive programme as described in Annex III. In this regard, the Myanmar side will be requested to provide at least the same amount of inputs for the buckwheat project in the said three (3) years.

## 项目形成调查团有关果敢特区禁毒及扶贫项目 调查结果及今后对策建议

果敢特区禁毒及扶贫项目形成调查团（国际协力机构亚洲第一部部长佐藤干治为团长）以荞麦项目评价和今后的实施计划的制定以及收集将要形成的以实现果敢特区的禁毒和扶贫为目标的新项目所需的数据、资料为目的，从2004年2月6日至2004年3月14日在缅甸实施了调查。通过调查得到的调查结果和今后对策的建议概要如下。详细内容和注意事项见附件1至3。

本文件只不过是调查团目前的看法，并不是日本国际协力机构或日本政府的组织决定。今后双方进行协商时，希望本文件作为基本资料被有效地加以利用。

### 1, 荞麦项目的评价和根据评价制定的今后实施计划草案

荞麦项目实施的目的是用日本的荞麦品种替代罂粟，在盛产罂粟的果敢特区及周围地区（皎梅、穆塞、古凯）种植。

大约5年的合作过程中，在周围地区通过居民组织扎根了荞麦种植技术，可以认为作为替代作物的日本荞麦基本扎了根。在果敢特区，2003年完全实现禁种罂粟，日本荞麦的种植也在一定程度上扎下了根，成了居民的现金收入来源的一部分。但是禁种罂粟后，对居民生活的冲击太大，只靠日本荞麦销售的收入不能维持生活。

另外，作为经济作物的日本荞麦的市场没有得到充分扩大，公路不发达交通困难的现场条件下收购等项目操作也有问题。

作为罂粟替代种植作物，日本荞麦的有效性已被确认。所以，为了确认荞麦种植在果敢特区的可行性，需要开展荞麦种植到出售的一系列的验证调查、技术指导、试验，在这期间荞麦项目的援助要继续下去。同时，根据经验，要调整活动内容和实施方法。

### 2, 果敢特区禁毒及扶贫项目

在果敢特区里，为了实现自理满足温饱水平，除了日本荞麦种植外，还需要实施稳定居民生活的综合性援助，其中包括其它替代种植作物的推广等农业开发、基础设施的建设、人的基本需求（教育、卫生保健）的改善等。

这项计划实施的时候，每年要改善其生活水平，并要让居民切实感觉到生活水平的提高。日方援助结束后，缅甸政府、果敢特区政府、果敢特区居民分别发挥应发挥的作用，要走可持续发展的道路。这是援助计划的基本思路。

完

## 附件 1 有关荞麦项目

### 1, 调查结果、问题

(1) 果敢特区及周围地区有一定程度推广了日本荞麦品种的种植技术。

(2) 特别是周围地区（皎梅、穆塞、古凯），种植技术的推广和居民组织进行种植和收购的管理等方面有所发展。

(3) 在果敢特区，种植技术和质量管理技术还没有充分地推广，还没达到自己独立种植的水平。

(4) 虽然政府收购为前提，但是日本荞麦的种植作为罌粟替代种植是有意义的。

(5) 日本荞麦的种植期和罌粟种植期重复，并且种植时间短，适合于套种作物。

(6) 作为罌粟替代种植经济作物的日本荞麦有待于解决加工品的开发、市场扩大等问题。

### 2, 实施战略

(1) 今后 3 年是尝试期，从播种到收购、流通、出售的一连串的流程进行验证调查、试验，以此确认日本荞麦在果敢特区扎根的可行性。

(2) 日本荞麦的种植地区和规模根据农业环境及地理交通条件调整。

### 3, 实施方法

(1) 实施主体改为缅甸方面。日方专家今后协助以缅方为主的事业的顺利开展。

(2) 对口机关和人员

边疆开发部 (NaTaLa)	项目实施主体
缅甸农业部 (MAS)	技术支持
果敢特区政府	项目实施共同主体
果敢特区日本荞麦种植农民	种植主体

(3) 对象地区

(a) 示范区（设置在龙潭乡，大水塘乡）

为推广荞麦种植技术，集中进行培训的地区，并从试验区招来农民进行培训。

(b) 试验区（果敢特区其它部分）

利用在示范区的培训成果，回去后在自己的土地上种植荞麦的地区。

(c) 观测区（皎梅地区、穆塞地区、古凯地区）

以居民为主实施荞麦种植。为了验证示范地区和试验地区的自立发展的可能性，在日方专家的协助下由对口人员进行观测。

(d) 调查研究培训机构

为了作物种植计划的探讨以及该地区的农业技术人员的培育，利用 MAS 南里农场，进行调查研究工作。另外，和果敢特区的设施（替代种植基地）保持密切合作。



#### 4, 活动内容

##### (1) 种植计划的制定

为边疆开发部和果敢特区政府制定的每年的种植面积、种植地点等计划, 日方提供技术支援。

##### (2) 种植及种子质量管理

要推广的种植技术是通过施肥提高产量的种植技术。

农民代表在示范区及农业部南里农场进行种植实习, 掌握种植和种子质量管理技术。代表们回到自己的村寨, 向其他村民转让技术。同时, 他们是促使种植规模扩大的主要对象。接受培训的代表们在自己的村寨进行技术转让的时候探讨日本荞麦和主要粮食作物的轮作体系。另外, 作为示范区培训的一部分, 进行收割后种子的处理(调整、储存)的技术指导。

##### (3) 收购及种子质量管理

将进行收购方法、分选方法的技术指导。为了确保出口到日本的荞麦的质量, 使培训人员掌握技术。

##### (4) 消费及加工

探讨果敢特区和周围地区内荞麦作为主食的消费扩大。

探讨缅甸国内外的消费途径。具体探讨荞麦面粉、面条、白酒及糕点原料的可行性。委托缅甸国内有前途的企业试验生产并开拓市场。

##### (5) 流通及销售(包括出口)

探讨国内外市场流通及销售所需要的措施。具体探讨消费者的爱好、广告宣传、缅甸政府能采取的措施(优待、行政指导等), 促使国内外市场的扩大。

##### (6) 基础设施建设

建设实验田地及培训设施等, 荞麦种植、加工等所需基础设施。

## 附件 2 果敢特区禁毒及扶贫计划

### 1、调查结果

(1) 禁种罂粟以后, 农民的现金收入显著减少, 导致不能维持基本生活的贫困群体的大量增加。

(2) 日本荞麦虽然发挥了罂粟替代种植作物的功能, 但是在社会环境激变的情况下, 出售荞麦的收入远远不够维持生活, 2004 年雨季到来前贫困群体已经面临严重的粮食短缺。

(3) 作为开发基础的公路、供水等基础设施严重短缺。

(4) 大多数居民没有接受过初级教育。另外, 禁种罂粟以后就学率急速下降, 导致学校关闭现象的发生。

(5) 很可能营养及卫生情况的恶化引起的疾病正在增加(包括因疟疾大量死亡)。

### 2、计划方案

目前预想的综合性计划包括以下内容。

详细内容待将要派遣的第二次项目形成调查团的调查结果。

#### (1) 建立禁种罂粟以后的新的农业生产体系

(a) 以尽快提高主要粮食的产量为目标, 选定作物, 在荞麦项目示范区的不同海拔的试验田地开始试验种植。

(b) 组织缅甸农业部和果敢特区双方组成的推广小组, 为农民代表提供培训。

(c) 调查研究和培训所需设施取得緬方的协助, 基本使用现有设施。如需要扩建、新建的话, 探讨日方能否承担。

#### (2) 基础设施建设

(a) 在该地区进行援助的时候, 最关键的基础设施是公路和供水设备(生活用水和农业用水)。

(b) 我国提供无偿资金援助一部分的老街至拱掌的公路建设是急待解决的问题。緬方应尽快完成它所承担的 62 公里的路段。

(c) 基础设施的建设需要地形图。另外, 也需要掌握开发用的基本数据(农业、养殖业、林业、畜牧业、社会基础设施、土壤、居民社会数据等)。

(d) 在荞麦种植示范区以及试验区进行推广活动时, 需要建设设施的话, 尽量让当地居民或当地组织参加, 并把该模式推广到其它试验区。

#### (3) 教育

就学率和识字率都很低, 需要努力实现基本人权之一的《人人能享有教育》的目标。通过教育的普及, 让果敢特区居民享受緬甸国民应享受的国家公共服务。为

实现这些目的实施下述内容的援助。这些援助需要在缅甸教育部的合作下进行。

(a) 为了提高就学率，提供派遣老师、教学计划和教材的编写、学校建设等的援助。

(b) 探讨提高上学积极性的方法。同时探讨当地居民自主管理学校的方法（包括本地老师的培养）。

(c) 给学校附带社区活动中心的功能，使所有居民提高知识水平，促进其参与社区活动。

社区活动中心功能包括：学前识字教育、成人识字教育（母语、汉语、缅语）、卫生保健教育（包括营养学）、烹调（包括荞麦）缝纫等简单的职业培训。

#### (4) 卫生保健

(a) 作为紧急措施探讨疟疾对策、注射预防针等的实施。

(b) 为了减少因恶劣的营养状态引起的疾病，促使营养改善以及医疗卫生等服务的扩大。

(c) 建设乡村医院、卫生所，同时加强现有设施的功能。根据交通困难的现状探讨巡回医院的实施。

(d) 实施在社区活动中心等进行的卫生保健教育、营养教育。

(c) 这些援助在缅甸卫生部的合作下进行。

### 附件 3 本计划实施的注意事项

#### 1, 组织 3 方协调委员会

为本计划的高效实施, 比以往更需要缅甸政府、果敢特区政府、特区居民的合作。同时, 本地区的开发成功的前提条件是缅甸政府、果敢特区政府的合作关系的加强。因此, 需要双方职责的协调机制, 提高决策的透明度。所以, 我们认为需要建立缅甸政府、果敢特区政府以及日方代表 3 方面的协调委员会。另外, 在现场实施项目的时候也需要建立 3 方面联合组成的小组。

#### 2, 要建立能有自立发展性的合作体制和内容

应该预先作好日方对该地区的援助结束以后的缅甸方面的持续实施计划。所以从中长期的观点来看, 不仅要提高当地居民的素质, 也要进行果敢特区政府的人才培养及组织建设。因此, 要促使果敢特区的人才积极参加本计划。

#### 3, 荞麦项目

荞麦项目经过今后的 3 年告一段落, 如果能确认持续发展的可行性的话, 将其包含在综合性计划的一部分。这 3 年期间将和以往一样, 缅甸政府可能需要承担财政上以及组织上的责任。

(Tentative translation)

လေ့လာတွေ့ရှိချက်များနှင့် အကြံပြုချက်များ  
ကိုးကန့်ဒေသ ဘိန်းစိုက်ပျိုးမှုပျောက်ရေး နှင့် စီးပွားရေးဖွံ့ဖြိုးရေး အစီအစဉ်အတွက်  
စီမံကိန်းဖော်ဆောင်ရေးလေ့လာမှုအဖွဲ့ကပြုစုသည်။

လောက်ကိုင်မြို့၊ မတ်လ ၉ ရက်၊ ၂၀၀၄

စီမံကိန်းအသစ်ကို အကောင်အထည်ဖော်မည့်အစီအစဉ်ကို ပြန်လည်လေ့လာဆန်းစစ်  
သုံးသပ်ရန် ရည်ရွယ်ချက်နှင့် ကိုးကန့်အထူးဒေသ(၁)တွင် “ဘိန်းစိုက်ပျိုးမှု ပျောက်ရေးနှင့် စီးပွားရေး  
ဖွံ့ဖြိုးမှု အစီအစဉ်” စီမံကိန်း ဖော်ဆောင်ရန်၊ အချက်အလက်ပြုစုရန် ရည်ရွယ်ချက်တို့နှင့် ဂျပန်နိုင်ငံ  
အပြည်ပြည်ဆိုင်ရာ ပူးပေါင်းဆောင်ရွက်ရေးအေဂျင်စီ (ဂျိုင်ကာ၊ JICA) စည်းရုံးမှုဖြင့် ဂျပန်နိုင်ငံ  
အပြည်ပြည်ဆိုင်ရာ ပူးပေါင်းဆောင်ရွက်ရေးအေဂျင်စီရုံးချုပ်၊ ဒေသဆိုင်ရာ ဌာန(၁) ၏အုပ်ချုပ်မှုဒါရိုက်တာ  
မစ္စတာမိကီဟာရုဆာတို (Mr. Mikiharu SATO) ခေါင်းဆောင်ပြီး မြန်မာနိုင်ငံ ကို ၂၀၀၄ ခုနှစ်  
ဖေဖော်ဝါရီလ ၆ ရက်မှ မတ်လ ၁၄ ရက်အထိ လာရောက်လေ့လာခဲ့သည်။

လေ့လာတွေ့ရှိချက်များနှင့် ထောက်ခံချက်များမှာ အောက်ပါအတိုင်းဖြစ်သည်။ အသေးစိတ်  
အချက်များနှင့် မှတ်ချက်များကို နောက်ဆက်တွဲ ၁/၂/၃ တွင်ဖော်ပြထားသည်။

၎င်းတို့မှာ တွေ့ရှိချက်များ၏ အခြေအနေ အားလျော်စွာ ထောက်ခံသည်အချက် အများဖြစ်ပြီး  
ဂျပန်အစိုးရ သို့မဟုတ် JICA ၏အပြီးသတ်တင်ပြချက် မဟုတ်သည်ကို သက်ဆိုင်ရာ အဖွဲ့အစည်း  
တို့က နားလည်ပေးစေလိုပါသည်။ အထက်ပါအဖွဲ့များက အခြားသော လေ့လာမှုများကို အခြေခံ၍  
နောက်ပိုင်း ထပ်မံလေ့လာသုံးသပ်ရန် ရှိပါသေးသည်။ မြန်မာနိုင်ငံ၏ သက်ဆိုင်ရာ အဖွဲ့အစည်းတို့က  
ဤစာရွက်စာတမ်းများ ကို လေ့လာဆွေးနွေးရာတွင် အသုံးပြုရန်လည်း အလွန်သင့်လျော်ပါသည်။

၁။ ပန်းဂျုံစီမံကိန်းလုပ်ဆောင်ရေးအစီအစဉ်ကိုပြန်လည်သုံးသပ်ခြင်းရလဒ်များ၊

ပန်းဂျုံစီမံကိန်းကို ကိုးကန့်အထူးဒေသ (၁) နှင့် အနီးတဝိုက်ဒေသများဖြစ်သည့် ကျောက်မဲ၊  
မူဆယ်၊ ကွတ်ခိုင် တို့တွင် ဘိန်းစိုက်ပျိုးမှု ပျောက်ရန် ဘိန်းအစားထိုးသီးနှံအဖြစ် ဂျပန်ပြည်မှ အမျိုးမျိုး  
သော ပန်းဂျုံများကို ယူဆောင်လာပြီး စတင်ခဲခြင်းဖြစ်သည်။

၅ နှစ်တာလုပ်ငန်းများ၏ ရလဒ်အဖြစ် ကျောက်မဲ၊ မှုဆယ် နှင့် ကွတ်ခိုင် တို့တွင် ဘိန်းအစားထိုး ပန်းဂျုံစိုက်ပျိုးမှုကို ဒေသခံလူမှုအစုအဖွဲ့ အဖွဲ့အစည်းများ၏ လုပ်ဆောင်မှုဖြင့် အောင်အောင်မြင်မြင် ထူထောင်နိုင်ခဲ့ပြီးဖြစ်သည်။ ကိုးကန့်ဒေသခံတို့က ၂၀၀၃ ခုနှစ်တွင် ဘိန်းစိုက်ပျိုးမှု ပပျောက်အောင် လုပ်နိုင်ခဲ့ပြီး၊ ပန်းဂျုံစိုက်ပျိုးရေးကို ထူထောင်နိုင်လှနီးပါး ဖြစ်နေပါသော်လည်း တောင်သူများအနေဖြင့် ဤဝင်ငွေ တစ်ခုတည်းဖြင့် မရပ်တည်နိုင်ချေ။ ဤစီမံကိန်းတွင် ပန်းဂျုံဈေးကွက်ရရှိရေး၊ ပန်းဂျုံ အရည်အသွေး၊ သယ်ယူပို့ဆောင်ရေး စသည်၊ အားနည်းချက်များလည်းရှိပါသည်။

ကိုးကန့်အထူးဒေသသည် မိမိတို့ကိုယ်တိုင် ပန်းဂျုံစိုက်ပျိုးနိုင်ပြီး မြန်မာအစိုးရနှင့် ပူးပေါင်း၍ စိုက်ပျိုးခြင်းမှ ဈေးကွက်တင်ရောင်းချနိုင်သည်အထိ ဆောင်ရွက်နိုင်ရန် စဉ်ဆက်မပြတ် အကူအညီပေးရန် လိုကောင်းလိုပေလိမ့်မည်။ အကယ်၍ ကျွန်ုပ်တို့က ကိုးကန့်အထူးဒေသကို ဆက်လက်အကူအညီ ပေးမည်ဆိုပါက ထို (၅) နှစ်အတွင်း ရရှိခဲ့သည့် သင်ခန်းစာများပေါ် အခြေခံပြီး အနာဂါတ် စီမံကိန်းကို ပြန်လည်လေ့လာသုံးသပ်ရန်လိုပါမည်။

၂။ ဘိန်းစိုက်ပျိုးမှုပပျောက်ရေးနှင့် စီးပွားရေး ဖွံ့ဖြိုးမှုအစီအစဉ်

တချိန်တည်းမှာပင် ကိုးကန့်အထူးဒေသသည် စိုက်ပျိုးရေးဖွံ့ဖြိုးတိုးတက်မှု (ပန်းဂျုံ နှင့်တကွ အခြားအစားထိုးသီးနှံများ မိတ်ဆက်စိုက်ပျိုးမှု) နှင့် အခြေခံလူမှုလိုအပ်ချက်များ (ပညာရေး၊ ကျန်းမာရေး စသည်) ပြည့်စုံကုံလုံမှုတို့ပါဝင်သည့် လူမှုဖွံ့ဖြိုးမှုများအတွက် ပြင်ပမှအထောက်အပံ့များ လိုအပ်သည်။

ဤအစီအစဉ်တွင် ကျွန်ုပ်တို့၏ အခြေခံဦးတည်ချက်များမှာ ကိုးကန့်အထူးဒေသမှာ နေထိုင် သူတို့ စားဝတ်နေရေးကို အဆင့်နိမ့်သည်၊ လူနေမှုအဆင့်မှ မိမိတို့နေ့စဉ်ဘဝ၏ တိုးတက်လာမှုကို သိမြင်နိုင်သည်၊ လူနေမှုအဆင့်အထိရောက်အောင် မြှင့်တင်ပေးရန်နှင့် မြန်မာအစိုးရ၊ ကိုးကန့် အထူးဒေသနှင့် ကိုးကန့်ဒေသမှာ နေထိုင်သူများက မိမိတို့ကိုယ်တိုင် ဂျပန်အစိုးရ၏ အထောက်အပံ့ မပါဘဲ စဉ်ဆက်မပြတ် ဖွံ့ဖြိုးတိုးတက်မှုရှိစေရန်အတွက် မြန်မာနိုင်ငံအစိုးရဘက်မှလည်း ပူးပေါင်း ဆောင်ရွက်မည်၊ အနာဂါတ်၏ ရုပ်ပုံကားချပ် တစ်ခုပေါ်ပေါက်လာနိုင်အောင် ကူညီမည်ဖြစ်ပါသည်။

**နောက်ဆက်တွဲ (၁)**

**ပန်းဂျုံစီမံကိန်း**

**(ယခုလက်ရှိ ဆောင်ရွက်ပြီး လုပ်ငန်းများနှင့် ရှေ့လုပ်ငန်းစဉ်များ ပြန်လည်သုံးသပ်ခြင်း)**

(၁) တွေ့ရှိချက်များ

- (က) ဂျပန်မျိုးပန်းဂျုံများ၏ စိုက်ပျိုးမှုနည်းလမ်းများကို ကိုးကန့်အထူးဒေသနှင့် အနီးတဝိုက် (ကျောက်မဲ၊ မူဆယ်၊ ကွတ်ခိုင်) ဒေသများတွင် အခြေတည်နေပြီဖြစ်သည်။
- (ခ) အထူးသဖြင့် ကျောက်မဲ၊ မူဆယ် နှင့် ကွတ်ခိုင်တို့တွင် ဒေသခံအဖွဲ့အစည်းများ၏ ပန်းဂျုံ စိုက်ပျိုးမှုသည် အောင်မြင်စွာ အခြေတည်နေပြီ ဖြစ်သည်။
- (ဂ) ကိုးကန့်အထူးဒေသ(၁)တွင် ပန်းဂျုံအရည်အသွေး ထိန်းသိမ်းခြင်းနှင့် စိုက်ပျိုးရေးနည်းလမ်းများ လွှဲပြောင်းပေးခြင်းတို့မှာ မပြည့်စုံသေးဘဲ တောင်သူများကိုယ်တိုင် အစအဆုံးပန်းဂျုံ စိုက်ပျိုးနိုင် ရန်အတွက် အချိန်ထပ်လိုပါဦးမည်။
- (ဃ) အကယ်၍ မြန်မာအစိုးရက ပန်းဂျုံကို ဆက်လက်ဝယ်နေပြီး ပန်းဂျုံဈေးကွက် တည်ငြိမ်နေပါ က ပန်းဂျုံသည် ဘိန်းအစားထိုးသီးနှံအဖြစ် ဆက်လက်ရပ်တည်နေမည်ဖြစ်သည်။
- (င) ပန်းဂျုံစိုက်ကာလမှာ (၂) လခန့်သာကြာပြီး ဘိန်းစိုက်ရာသီနှင့် ကိုက်ညီနေသဖြင့် ပန်းဂျုံမှာ အခြားသီးနှံများနှင့် ယှဉ်လျှင် ဝင်ငွေရသီးနှံအဖြစ် ရပ်တည်နိုင်သည်။
- (စ) ပန်းဂျုံမှ ထွက်ရှိသည် အခြားထွက်ကုန်များနှင့် နောက်ထပ်ဈေးကွက်သစ် ရှာဖွေရန်တို့မှာ ပန်းဂျုံ ဆက်လက် စိုက်ပျိုးမှုအတွက် ဖြေရှင်းရန် ကျန်ရှိနေသည် အချက်များဖြစ်သည်။

(၂) စီမံကိန်း၏ ယူဆချက်များ

- (က) ကိုးကန့်အထူးဒေသတွင်း ပန်းဂျုံစိုက်ပျိုးမှု အခြေတည်ရန် ဖြစ်နိုင်ချေရှိ၊ မရှိ အကဲဖြတ်ရန် ပဌမ (၃) နှစ်ကို စမ်းသပ်ကာလအဖြစ် သတ်မှတ်သည်။ ဤကာလအတွင်း လိုအပ်သော လေ့လာဆောင်ရွက်မှုများနှင့် စမ်းသပ်ချက်များကို စိုက်ပျိုးသည်မှ ရောင်းချသည်အထိ ပြုလုပ်မည်။
- (ခ) စီမံကိန်း၏ သတ်မှတ်နေရာဒေသများကို စိုက်ပျိုးရေး အခြေအနေနှင့် အခြေခံမြေအနေအထား တို့အပေါ်မူတည်၍ပြန်လည် စဉ်းစားသုံးသပ်မည်။

(၃) ဆောင်ရွက်မည့်နည်းလမ်းများ

- (က) အဓိကအဖွဲ့အစည်း

မြန်မာအစိုးရနှင့် ကိုးကန့်အထူးဒေသဘက်တို့ဘက်က လိုအပ်သည်များကို စတင်ဆောင်ရွက်ပြီး ဂျပန်ဘက်မှ အထက်ပါအဖွဲ့တို့၏ကြိုးပမ်းမှုများကို အဓိကထောက်ကူရန် ဖြစ်သည်။

(ခ) ပူးတွဲဆောင်ရွက်မည့်အဖွဲ့အစည်းများ၊

- နယ်စပ်ဒေသနှင့်တိုင်းရင်းသားလူမျိုးများ အဓိကအကောင်အထည်ဖော်ရေးအဖွဲ့၊  
ဖွံ့ဖြိုးတိုးတက်ရေးဦးစီးဌာန
- မြန်မာ့စိုက်ပျိုးရေးလုပ်ငန်း နည်းပညာထောက်ပံ့ခြင်းအဖွဲ့
- ကိုးကန့်အထူးဒေသ ပူးတွဲအကောင်အထည်ဖော်ရေးအဖွဲ့
- ကိုးကန့်အထူးဒေသခံတောင်သူများ ပန်းဂုံစိုက်တောင်သူများအဖွဲ့

(၃) ရည်ရွယ်ထားသောဒေသများ၊

(က) စံပြဒေသ (လုံတန်၊ တာရွှေတန် )

ပန်းဂုံစိုက်ပျိုးရေး အရည်အချင်းများကို ဖြန့်ဝေနိုင်ရန်အတွက် စံပြကျေးရွာအတွင်းမှ ရွေးချယ်ထားသောတောင်သူ လယ်သမားများကို လိုအပ်သောသင်တန်းများကို ပို့ချပေးရန်၊

(ခ) ရှေ့ဆောင်ဒေသ (အခြားကိုးကန့်ဒေသများ)

လေ့ကျင့်ပေးပြီးသော တောင်သူများသည် ရှေ့ဆောင်ကျေးရွာအတွင်း ပန်းဂုံစိုက်ပျိုးရေးကို စီမံအုပ်ချုပ်သွားနိုင်ရန်၊ (မိမိတို့နေရာဒေသများအတွင်း)

(ဂ) ဦးဆောင်ဒေသ (မူဆယ်၊ ကွတ်ခိုင်၊ ကျောက်မဲ)

ရေရှည်ရပ်တည်သွားနိုင်ရန်အတွက် စီမံကွပ်ကဲ ဦးဆောင်ဒေသအတွင်းမှ တောင်သူ လယ်သမားများသည် ဂျပန်အကူအညီဖြင့် ပန်းဂုံစိုက်ပျိုးရေးကို ဦးဆောင်စီမံကွပ်ကဲရန်၊

(ဃ) ဖွံ့ဖြိုးမှုသုတေသနနှင့် သင်တန်းများပို့ချခြင်း၊

သီးနှံများစိုက်ပျိုးသည်ပုံစံများကို လေ့လာရန်နှင့် ထိုဒေသတွင် စိုက်ပျိုးရေးပညာရှင်များကို မွေးထုတ်ပေးနိုင်ရန်အတွက် မြန်မာနိုင်ငံဘက်မှ ဖွံ့ဖြိုးမှုသုတေသနကို နလီ၌ရှိသော မြန်မာ့စိုက်ပျိုးရေးလုပ်ငန်းပိုင် လယ်ယာမြေပေါ်တွင် ဆောင်ရွက်ရန်နှင့် ကိုးကန့်အထူးဒေသပိုင် နေရာများ (စံပြအစားထိုးသီးနှံလယ်ယာမြေ အစရှိသည်) နှင့်လည်း ဆက်သွယ်တိုင်ပင်ရန်၊

(၄) စီမံကိန်း၏ အကြောင်းအရာများ



(က) နှစ်စဉ်စိုက်ပျိုးရေးအစီအစဉ်များရေးဆွဲခြင်း

လိုအပ်သော နှစ်စဉ်စိုက်ပျိုးရေးဒေသ အစီအစဉ်များ ရေးဆွဲရန်အတွက် နယ်စပ်ဒေသနှင့် တိုင်းရင်းသားလူမျိုးများ ဖွံ့ဖြိုးတိုးတက်ရေးဦးစီးဌာနနှင့် ကိုးကန့်အထူးဒေသသို့ နည်းပညာအကြံဉာဏ် များပေးရန်၊

(ခ) စိုက်ပျိုးထုတ်လုပ်ခြင်း

(စိုက်ပျိုးခြင်း၊ ရိတ်သိမ်းခြင်း၊ အခြောက်ခံခြင်း၊ အစေ့များသန့်စင်ခြင်းနှင့် သိုလှောင်မှု)

ဤလုပ်ငန်း၏ လိုအပ်ချက်ဖြစ်သည့် ဓါတ်မြေဩဇာကိုအသုံးပြုပြီး အထွက်တိုးထုတ်လုပ်မှုအတွက် စိုက်ပျိုးရေးနည်းပညာ လွှဲပြောင်းပေးအပ်ရန် ဖြစ်သည်။ ရှေ့ဆောင်ဒေသမှ တောင်သူများသည် စံပြ ဒေသများနှင့် မြန်မာ့စိုက်ပျိုးရေးလုပ်ငန်း (နုလီလယ်ယာစခန်း) မှ သင်တန်းများမှတစ်ဆင့် စိုက်ပျိုးခြင်း ရိတ်သိမ်းခြင်း နည်းပညာများ ဆိုင်ရာဗဟုသုတနှင့် ကျွမ်းကျင်မှုများကို ရယူမည်။ ၎င်းတောင်သူများ မှာ ၎င်းတို့ဒေသမှ သင်တန်းမတက်နိုင်သည့် အခြားတောင်သူများကို ဆင့်ပွားသင်ကြားပေးပြီး အနာဂတ် ပန်းဂျုံစိုက်ပျိုးမှု တိုးချဲ့ရာတွင် အဓိက အခန်းကဏ္ဍမှ ပါဝင်နိုင်ရန်၊

၎င်းအပြင် အဆိုပါတောင်သူများသည် ပန်းဂျုံနှင့် အခြားသီးနှံများအကြား သင့်လျော်သည့် စိုက်ပျိုးရေးလုပ်ငန်း အစီအစဉ် ရေးဆွဲနိုင်ရန်၊

စံပြဒေသများတွင် သင်တန်း၏ အစိတ်အပိုင်း တစ်ခုအဖြစ် တောင်သူများသည် ရိတ်သိမ်းပြီး နောက်လိုအပ်သော ဆောင်ရွက်ချက်များ (အခြောက်ခံခြင်း၊ သန့်စင်ခြင်း နှင့် သိုလှောင်ခြင်း) ကိုပါ လေ့လာရန်၊

(ဂ) စုဆောင်းခြင်းနှင့် အရည်အသွေးထိန်းချုပ်ခြင်းနည်းပညာ

သင်တန်းများတွင် ရိတ်သိမ်းစုဆောင်းခြင်းနှင့် မျိုးစေ့ရွေးချယ်ခြင်း နည်းပညာများကို ဖြန့်ဖြူးပေး ရန် ရည်ရွယ်ပါသည်။ ဂျပန်ဈေးကွက်အတွက် သီးသန့်အရည်အသွေးထိန်းချုပ်ခြင်း အရည်အချင်းများ ကိုလည်း လေ့လာနိုင်ရန်၊

(ဃ) ဈေးကွက်ရှာဖွေခြင်းနှင့် ထုတ်ကုန်အဖြစ်ပြုလုပ်ခြင်း

အဓိကစားသောက်ကုန်အဖြစ် ပန်းဂျုံစားသုံးမှုကို ကိုးကန့်ဒေသနှင့် အနီးဝန်းကျင်နေရာများတွင် စားသုံးမှုနှုန်း တိုးမြှင့်ရန် လေ့လာသုံးသပ်မည်။ ကိုးကန့်အထူးဒေသနှင့် အနီးဝန်းကျင်နေရာများတွင် ပန်းဂျုံစားသုံးမှုကို တိုးချဲ့ခြင်း၊ အကယ်၍ မြန်မာအစိုးရက ပန်းဂျုံ ဝယ်ယူမှု မဟာဏ္ဍာအကန့်အသတ်ကို ထိန်းသိမ်းထားမည် ဆိုပါက ကိုးကန့်အထူးဒေသနှင့် အနီးပတ်ဝန်းကျင် နေရာများတွင် ပန်းဂျုံစားသုံး မှုကို တိုးမြှင့်နိုင်ခြင်း ရှိ၊ မရှိကို သုံးသပ်ရန်၊

ပြည်တွင်းနှင့် ပြည်ပဈေးကွက် ရှာဖွေခြင်း

ပြည်တွင်းနှင့် ပြည်ပဈေးကွက်များသို့ ပန်းဂျုံထုတ်ကုန်ပစ္စည်းများ၊ ပန်းဂျုံအမှုန့်၊ ပန်းဂျုံအရက်၊ ပန်းဂျုံခေါက်ဆွဲနှင့် ပန်းဂျုံမုန့်များကို တင်ပို့မှု၏ဖြစ်နိုင်ချေကို လိုအပ်ပါက မြန်မာအစိုးရ ၏ အကူအညီဖြင့် တာဝန်ပေးအပ်သော ပုဂ္ဂလိကကုမ္ပဏီများတွင် လေ့လာဆန်းစစ်ရန်၊

(င) ဈေးကွက်တင်ခြင်းနှင့် ရောင်းချခြင်း(ပြည်ပပို့ကုန်)

အထက်ဖော်ပြပါပစ္စည်းများကို ပြည်တွင်းပြည်ပ ဈေးကွက်များသို့ တင်ပို့ပြီး ဈေးကွက် အများဆုံး ရနိုင်ရန် ဖြစ်နိုင်ခြေကို စားသုံးသူအကြိုက် ကြော်ငြာခြင်းနှင့် လူထုဆက်ဆံရေး ရှုထောင့်များမှ ထည့်သွင်းစဉ်းစားပြီး လက်တွေ့ကျကျ တွေးဆမှုများနှင့် အခြားလိုအပ်သည့် တွက်ချက်မှုများကို မြန်မာအစိုးရအနေဖြင့် လေ့လာသုံးသပ်ရန်ဖြစ်ပါသည်။ ထိုဖြစ်နိုင်ချေ လေ့လာမှုများကို ပုဂ္ဂလိက ကုမ္ပဏီမှ တာဝန်ယူလုပ်ကိုင်ရမည်ဖြစ်ပါမည်။

(စ) ရှေ့ဆောင်စိုက်ပျိုးရေးနှင့် သင်တန်းများအတွက် အခြေခံ လိုအပ်ချက်အဆောက်အဦ ဖွံ့ဖြိုးမှု

စိုက်ပျိုးရေးနှင့် ကုန်ထုတ်လုပ်မှုနည်းလမ်းများ ပြန့်ပွားပေးနိုင်ရန် အတွက်လက်တွေ့ စမ်းသပ် လယ်ယာ နှင့် သင်တန်းများအတွက် လိုအပ်သော အဆောက်အဦများ တည်ဆောက်ပေးရန်၊

**နောက်ဆက်တွဲ (၂)**

**ဘက်စုံအစီအစဉ် (ဘိန်းစိုက်ပျိုးမှုပျောက်ရေးနှင့် စီးပွားရေး ဖွံ့ဖြိုးမှုအစီအစဉ်)**

(၁) တွေ့ရှိချက်များ

(က) ဘိန်းစိုက်ပျိုးမှုကို တားမြစ်လိုက်ပြီးနောက် တောင်သူများ၏ ဝင်ငွေကျဆင်းသွားသောကြောင့် အများစုမှာ ဆင်းရဲနွမ်းပါးပြီး စားဝတ်နေရေး အခက်အခဲ ဖြစ်နေရပါသည်။

(ခ) ပန်းဂျုံကို ဘိန်းအစားထိုးသီးနှံအဖြစ် အခြေအနေတစ်ခုအထိ ရပ်တည်နိုင်မည်ဖြစ်သော်လည်း အခြေအနေများ ရုတ်ချည်းပြောင်းလဲသွားမှုကြောင့်၊ တောင်သူများသည် ပန်းဂျုံမှရသည့် ဝင်ငွေတစ်ခု တည်းဖြင့် စားဝတ်နေရေးအတွက် ရပ်တည်နိုင်ခြင်းမရှိပါ။ အချို့ မိသားစုများမှာ ၂၀၀၄ မေ၊ ဇွန်လများ တွင် ကျရောက်မည့် မိုးရာသီအထိ အစားအစာ ဖူလုံမှုမရှိမည်ကို စိုးရိမ်ပူပန်နေကြပါသည်။

(ဂ) ကိုးကန့် အထူးဒေသ (၁) တွင် လမ်းပမ်းဆက်သွယ်ရေး၊ ရေရရှိမှုစသည် ဒေသဖွံ့ဖြိုးမှုအတွက် အခြေခံကျသည့် လိုအပ်ချက်များမှာ ကောင်းစွာ မဖွံ့ဖြိုးသေးပါ။

(ဃ) ပြည်သူအများစုမှာ အခြေခံပညာရေးသင်ယူနိုင်ခြင်း မရှိပါ။ ထို့အပြင် ဘိန်း စိုက်ပျိုးမှု တားမြစ်ပြီးနောက် မူလတန်းကျောင်းတွင် ကျောင်းတက်မှုနှုန်း များစွာလျော့ကျသွားပြီး အချို့ကျောင်းများ ပိတ်လိုက်ရပါသည်။

(င) အာဟာရချို့တဲ့မှုနှင့် ရေကောင်းရေသန့် မရရှိဘဲ ပတ်ဝန်းကျင်သန့်ရှင်းမှု မရှိသည်။ နေထိုင်မှု အခြေအနေများကြောင့် ကူးဆက်ရောဂါများ ဖြစ်ပွားမှုနှုန်းတိုးမြှင့်လာသည်။

(၂) ရှေ့လုပ်ငန်းစဉ်ဆိုင်ရာ အဆိုပြုချက်များ

အောက်ဖော်ပြပါအချက်များသည် ရှေ့ဆောင်ရွက်ရမည့် လုပ်ငန်းစဉ်များအတွက် လတ်တလော အဆိုပြုတင်ပြချက်များ ဖြစ်သည်။

စီမံချက်လုပ်ငန်းများ၏ အသေးစိတ်များနှင့် လုပ်ငန်းတစ်ခုစီ၏ အရွယ်ပမာဏကို စီမံချက် ဖော်ဆောင်ရေး လေ့လာမှု၏ ဒုတိယအဆင့်တွင် ဆွေးနွေးဆုံးဖြတ်သင့်ပါသော်လည်း ကျွန်ုပ်တို့ ၏ အဖွဲ့သည် အောက်ပါအဆိုပြုချက်များကို တင်ပြလိုပါသည်။

(က) လယ်ယာစိုက်ပျိုးမှုစံနှုန်းတိုးတက်ကောင်းမွန်လာရေး

(၁) အလားအလာကောင်းသည့် သီးနှံကို ဖော်ထုတ်ရန်၊ တောင်သူများ စိုက်ပျိုးမြေယူနစ် အလိုက်အထွက်တိုးစေရန်အတွက် စားသုံးသီးနှံနှင့် ဝင်ငွေရသီးနှံများကို အတတ်နိုင်ဆုံး များများစိုက်ပျိုး ရန် ရည်ရွယ်လျက် မြန်မာ့စိုက်ပျိုးရေးလုပ်ငန်း နလီလယ်ယာစခန်းနှင့် စံပြဒေသတွင် ရှေ့ပြေးစိုက်ပျိုးခြင်း များစတင်ဆောင်ရွက်ရန်၊

(၂) မြန်မာ့စိုက်ပျိုးရေးလုပ်ငန်းနှင့် အထူးဒေသ (၁) မှ ဝန်ထမ်းများဖြင့် ဖွဲ့စည်းထားသည့် အဖွဲ့မှ စံပြဒေသရှေ့ဆောင်လယ်ယာစိုက်ခင်းတွင် တောင်သူများကို သင်တန်းပေးမည်။

(၃) လက်ရှိအဆောက်အအုံများ သင်တန်းဖွင့်လှစ်ရန်အတွက် အသုံးပြုမည် ဖြစ်ပါသည်။ လိုအပ်ချက်ပေါ်မူတည်၍ သင်တန်းအတွက် အဆောက်အအုံနှင့် ကိရိယာများကို ထပ်မံပံ့ပိုးရန် ဂျပန်ဘက်မှ ဖြစ်နိုင်ချေရှိ၊ မရှိသုံးသပ်လေ့လာသွားပါမည်။

(ခ) အခြေခံလိုအပ်ချက်များ

(၁) ဤဒေသဖွံ့ဖြိုးမှုအတွက် စိတ်ဝင်စားဖွယ်အကောင်းဆုံးမှာ လမ်းပမ်းဆက်သွယ်ရေး၊ စိုက်ပျိုးရေး နှင့် နေ့စဉ်ဘဝရေရရှိမှု စသည့်အခြေခံအဆောက်အအုံများ တည်ဆောက်ပေးနိုင်ရန် ဖြစ်သည်။

(၂) ဂျပန် Grant Aid ထောက်ပံ့မှုဖြင့် တစ်စိတ်တစ်ပိုင်း ပံ့ပိုးခဲ့သော လောက်ကိုင်နှင့် ကုန်းကြမ်းကြား ၆၂ ကီလိုမီတာ လမ်းကို အဖြစ်နိုင်ဆုံး လျှင်မြန်စွာ အပြီးသတ်ဆောက်လုပ်ရန် လိုအပ်သည်။

(၃) ပြီးပြည့်စုံသည့် အစီအစဉ်ကို ထိရောက်စွာ အကောင်အထည်ဖော်နိုင်ရေးနှင့် ရှေ့လုပ်ငန်းစဉ်တို့အတွက် အထက်ဖော်ပြပါ အခြေခံအဆောက်အအုံ ဖွံ့ဖြိုးတိုးတက်ရန် လိုအပ်သော အခြေခံဖွံ့ဖြိုးမှု အချက်အလက်များ (လယ်ယာစိုက်ပျိုးရေး၊ ရေထွက်လုပ်ငန်း၊ သစ်တော၊ မွေးမြူရေး၊ မြေအနေအထား၊ လူမှုရေး နှင့်ယဉ်ကျေးမှု အခြေအနေစသည်တို့) ရရှိရန်၊ ကိုးကန့်ဒေသ ၏ ကောင်းကင်မြေပုံသစ်ရရှိရန် အစရှိသည်တို့ လိုအပ်သည်။

(၄) သတ်မှတ်ဒေသတွင် လိုအပ်သည့် ဖြည့်ဆည်းပံ့ပိုးမှုများကို တည်ဆောက်နိုင်ရန် ပြည်သူများ ပူးပေါင်းပါဝင်ရန် လိုအပ်ပါသည်။ လူမှုအစုအဖွဲ့အစည်းတွင်း နေထိုင်သူများ၏ ပူးပေါင်းပါဝင်မှု အပေါ် မူတည်ပြီး အခြားကိုးကန့် ဒေသများအတွက် အခြေခံစံပြ ဖြစ်လာနိုင်သည်။

(ဂ) ပညာရေး (ကျောင်းတွင်းပညာရေးနှင့် ကျောင်းပြင်ပညာရေး)

အဓိကအားဖြင့် ဤအဖွဲ့သည် 'အားလုံးအတွက်ပညာရေး' ဆိုသည်မှာ အခြေခံကျသော လူ့အခွင့်အရေး တစ်ရပ်အဖြစ် ယူဆပါသည်။ မြန်မာအစိုးရကပေးနေသည့် လူမှုဝန်ဆောင်မှုများကို ကိုးကန့်ပြည်သူများ ရရှိခံစားနိုင်သည့် ပညာရေးစံနှစ်မျိုး ထူထောင်ရန်လိုအပ်သည်ဟု ယူဆပါသည်။

(၁) ပညာသင်ယူခွင့် ရရှိမှု တိုးတက်လာရန် များစွာသော လုပ်ဆောင်ချက်များ လုပ်ရန် လိုအပ်သည်။ (ဥပမာ။ ။ ကျောင်းများဆောက်လုပ်ခြင်း၊ ကိုးကန့်ဒေသ အထူးလိုအပ်ချက်များနှင့် ကိုက်ညီသည့် သင်ရိုးနှင့် ဖတ်စာအုပ်များ ပြုစုခြင်း၊ ဆရာ/မ များ ခန့်ထားခြင်းနှင့် ဒေသခံ ဆရာ/မ များ တိုးမြှင့်မှု စသည်များ)

(၂) တစ်ချိန်တည်းမှာပင် ဒေသခံလူမှုအစုအဖွဲ့၏ ကျောင်းများကို စီမံခန့်ခွဲမှုအပေါ်တွင် ပါဝင်ဖြည့်ဆည်းမှုများကိုလည်း ကျွန်ုပ်တို့ သုံးသပ်စဉ်းစားမည်။

(၃) အသုံးဝင်သည့် ဗဟုသုတများ ပံ့ပိုးပေးရန်နှင့် လူမှုပါဝင်ဆောင်ရွက်မှု အသိပညာများကို မြှင့်တင်ပေးရန် ကျောင်းများကို လူမှုအစုအဖွဲ့ဗဟိုဌာနများအဖြစ် အသုံးပြုရန် ရည်ရွယ်သည်။ လူမှုအစုအဖွဲ့ ဗဟိုဌာနများတွင် အောက်ပါလုပ်ငန်းစဉ်များကို ပြုလုပ်ရန်ဖြစ်သည်။

- ကျောင်းမနေမီနှင့် ကျောင်းထွက်ထားသော ခလေးများစာတတ်မြောက်ရေး
- အရွယ်ရောက်ပြီးလူကြီးများ စာတတ်မြောက်ရေး (မြန်မာစာ၊ ကိုးကန့်စာ နှင့် တရုတ်စာ)
- ကျန်းမာရေးဆောင်ရွက်မှုဆိုင်ရာပညာရေး (အဟာရနည်းပညာ၊ ချက်ပြုတ်နည်းပညာ)
- အခြေခံသက်မွေးပညာသင်တန်း (အပ်ချုပ်သင်တန်း စသည်)

(၅) အထက်ဖော်ပြပါ လုပ်ငန်းစဉ်များပြုလုပ်ရန် ပညာရေးဝန်ကြီးဌာန၏ ပူးပေါင်းဆောင်ရွက်မှု လိုအပ်ပါသည်။

(ဃ) ကျန်းမာရေး

(၁) အရေးပေါ်အခြေအနေများအတွက်လိုအပ်ချက်များ

(ဥပမာ။။ ၎င်းတို့ထိန်းချုပ်ရေး နှင့် ကြိုတင်ကာကွယ်ဆေးထိုးခြင်း)

(၂) အဟာရချို့တဲ့မှုနှင့် ရေကောင်းရေသန့်မရရှိဘဲ မသန့်ရှင်းသည့် ပါတ်ဝန်းကျင်တို့ကြောင့် ဖြစ်ပေါ်သည့် ရောဂါများ လျော့နည်းကျဆင်းစေရန်၊ အဟာရ အဆင့်အတန်း မြှင့်တင်ပေးပြီး ကျန်းမာရေး စောင့်ရှောက်မှုအရည်အသွေး မြှင့်တင်ဆောင်ရွက်ရန် ရည်ရွယ်သည်။

(၃) တိုင်း၊ ကျေးရွာအုပ်စုနှင့် လူမှုအစုအဖွဲ့အဆင့်တွင် ကျန်းမာရေးဆိုင်ရာ လက်ရှိအနေအထားကို ပိုမိုကောင်းမွန်စေပြီး ဆေးရုံ၊ ဆေးခန်း၊ ကျန်းမာရေးဌာနများ တည်ထောင်ဖွင့်လှစ်နိုင်ရန် လိုအပ်ပါသည်။ လမ်းပန်းဆက်သွယ်ရေး ခက်ခဲမှုများကို ထည့်သွင်းစဉ်းစားပြီး ရွေ့လျားနိုင်သည့် ကျန်းမာရေး စောင့်ရှောက်မှုလုပ်ငန်းကို မိတ်ဆက်လုပ်ဆောင်ပေးရန် စဉ်းစားသင့်သည်ဟုသုံးသပ်ပါသည်။

(၄) အဟာရ၊ ကျန်းမာရေး၊ ရေနှင့်သန့်ရှင်းမှု ပညာပေးအစီအစဉ်များကို လူမှုအစုအဖွဲ့ ဗဟိုဌာနများတွင် ပြုလုပ်ပေးမည်။

(၅) ဖော်ပြပါ လုပ်ငန်းစဉ်များ ဆောင်ရွက်နိုင်ရန် ကျန်းမာရေးဝန်ကြီးဌာန၏ ပူးပေါင်းဆောင်ရွက်မှုများ အထူးလိုအပ်ပါသည်။

**နောက်ဆက်တွဲ (၃)**

**အစီအစဉ်အကောင်အထည်ဖော်ဆောင်ရွက်ရေးအတွက်**

**အထူးမှတ်ချက်များ**

(၁) မြန်မာနိုင်ငံအစိုးရ၊ အထူးဒေသ (၁) နှင့် ဒေသခံတိုင်းရင်းသားများ၏ ပူးပေါင်းပံ့ပိုးမှုများ မပါဘဲ ဤအစီအစဉ် အောင်မြင်သွက်လက်စွာ မပြီးဆုံးနိုင်ပါ။ ထို့ကြောင့်ကိုးကန်ဒေသဖွံ့ဖြိုး တိုးတက်မှု အောင်မြင်စေရန် အဓိကသော့ချက်မှာ မြန်မာနိုင်ငံအစိုးရ၊ အထူးဒေသ (၁) နှင့် ဒေသခံများ ၏ ပူးပေါင်းဆောင်ရွက်မှု ပိုမိုခိုင်မြဲလာစေရန်ဖြစ်သည်။ ထို့အပြင် အကျိုးစီးပွားဆိုင်ရာ ဆွေးနွေးမှုများ ကို ညှိနှိုင်းဆောင်ရွက်ရန်နှင့် ဆုံးဖြတ်ချက်ချမှတ်ရာတွင် ပွင့်ပွင့်လင်းလင်းနှင့် သုံးဦးသုံးဖလှယ် ပူးတွဲညှိနှိုင်းရေး ကော်မတီတစ်ခုကို မြန်မာအစိုးရ၊ အထူးဒေသ (၁) နှင့် ဂျပန်အဖွဲ့အစည်းတို့ဖြင့် တည်ထောင်ရန် လိုအပ်သည်။ ၎င်းအပြင် အလားတူ ဒေသတွင်း၌ ညှိနှိုင်းမှုဘောင်တစ်ခု ဖွဲ့စည်းမှု ဤစီမံကိန်း ချောမွေ့စွာ အကောင်အထည်ဖော်ရာတွင် အသုံးဝင်မည်ဖြစ်ပါသည်။

(၂) ဂျပန်ဘက်မှ အထောက်အပံ့နှင့် ပူးပေါင်းဆောင်ရွက်မှုများ ရပ်စဲသွားပြီးနောက်တွင် မြန်မာနိုင်ငံ အစိုးရနှင့် ကိုးကန်ဒေသတို့မှာ မိမိတို့ကိုယ်တိုင် ဖွံ့ဖြိုးရေးကြိုးပမ်းမှုများကို ဆက်လက်လုပ်ဆောင်ရန် လိုအပ်သည့်အလျောက် လွတ်လပ်စွာ လုပ်ဆောင်နိုင်ရန်အတွက် အဖွဲ့များက ဤအစီအစဉ်ကို လွတ်လပ်ပြီး ဆက်လက်ထိန်းသိမ်းနိုင်စွမ်းရှိသည့် ပုံစံဖြင့် ပြုလုပ်ရန်ဖြစ်သည်။ ထို့ကြောင့် ကာလလတ် နှင့် ကာလရှည်များတွင် လူစွမ်းအားအရင်းအမြစ် ဖွံ့ဖြိုးတိုးတက်မှုများ၊ စွမ်းရည်ဖွံ့ဖြိုးတိုးတက်မှုများနှင့် ဒေသခံပြည်သူများ၏ စွမ်းရည်တည်ဆောက်မှုများ လိုအပ်ပါသည်။ ထို့ကြောင့် ဤအစီအစဉ်တွင် ကိုးကန်ပြည်သူများ၏ ပါဝင်ဆောင်ရွက်မှုမှာ မလွဲမသွေလိုအပ်သည့်အရာဖြစ်သည်။

(၃) ဂျပန်နိုင်ငံ၏ ပန်းဂျုံစီမံချက်အတွက်ထောက်ပံ့မှုမှာ နောက်ထပ် (၃) နှစ် ကြာမြင့်နိုင်ခြေ ရှိပါသည်။ အကယ်၍ ဤကာလပြီးနောက် ပန်းဂျုံစိုက်ပျိုးရေးမှာ ကိုးကန် အထူးဒေသတွင် ဆက်လက် တည်တန့်အောင် ထိန်းသိမ်းနိုင်သည် (ဆက်လက်ရှင်သန်နေနိုင်သည်) ဟု ယူဆပါက ပန်းဂျုံစီမံကိန်း သည် ဤနောက်ဆက်တွဲ (၃) တွင် ဖော်ပြထားသည့် ပြည့်စုံသည့် အစီအစဉ်တွင် ပူးတွဲပါဝင်နိုင်မည်ဖြစ် သည်။ ဤသို့ဖြင့် လာမည့် (၃) နှစ်အတွက် မြန်မာအစိုးရဘက်မှလည်း ယခုအတိုင်း ပံ့ပိုးကူညီမှုများကို ဆက်လက်ပေးသွားရန် လိုအပ်ပါဦးမည်။

## 2. 対処方針案会議資料

### 2-1 第1回

#### 「ミャンマー麻薬対策・貧困削減」プロジェクト形成調査対処方針案会議

日時：平成16年1月7日（水）14:00-16:00

場所：JICA本部11GH会議室

出席予定者：別添4

#### 議事次第

- (1) 佐藤 JICA アジア 第一部長挨拶
- (2) 出席者自己紹介
- (3) ソバ専門家からの報告
- (4) JICA から対処方針案説明
- (5) 質疑応答
- (6) 今後のスケジュール確認
  - ・ 現地調査日程
  - ・ 次回対処方針会議

#### 別添資料

1. 専門家報告資料
2. 対処方針案
3. 日程案
4. 出席予定者リスト

## プロジェクトの経緯

今村 甲  
 JICA専門家(国境地域支援調整)  
 2000年8月～2003年12月

## 2000年(1)の経緯(今村 甲)

- 1996年  
 日本側による現場視察(4/7, 11月)
- 1997年  
 実施可能性調査・ターシェータンにおける4E-カー試験栽培実施  
 12月 日越連会長来種
- 1998年  
 対象地域内(4E-カー試験栽培実施(ターシェータン、モンコー、タモニエ))  
 ※この収穫ソバを次年度用種子にする予定だったが、棄荷できます。

## 2000年(2)の経緯(今村 甲)

- 3月 1999年度ソバ栽培面積及び場所の協議・決定  
 (コーカン、モンコー、タモニエ地域で4E-カー)  
 氏原専門家着任
- 4月 クッカイ、ランオ、ナンバカにおいて種子増殖栽培実施  
 ※クッカイのみ成功し、20トンを得る
- 8月 不足分種子20トンを日本から購入  
 百田専門家着任
- ソバ栽培開始
- 10月 大地専門家着任
- 12月 日越連来種。現地視察の後に面積決定  
 ※ 200ドル/トン
- 2月 45トン集荷  
 18トンを日本へ輸出

## 2001年の経緯(今村 甲)

- 3月 クッカイにて種子増殖  
 ※ 60トンの種子を得る
- 8月 コーカン、モンコー、クッカイ、ハンセ、チャウメ地区にて4E-カーで  
 栽培開始  
 今村専門家着任(岩崎専門家の交替として)
- {2001年}
- 2月 168トン集荷
- 4月 日越連来種。現地視察後、面積決定  
 ※ 280ドル/トン
- 6月 54トンを日本へ輸出



8月 コーカン、モンロー、クックアイ、ハンセ、チャウメ地区4160エーカーで栽培開始  
 12月 集荷開始  
 1月 日延運来経、現地博覧会後価格及び買取数量決定  
 ※ 150トン及び200トン、2コンテナ及び3コンテナ  
 2月 158トン集荷  
 最初の1コンテナを輸出  
 3月 2コンテナを輸出

8月 コーカン、モンロー、クックアイ、ハンセ、チャウメ地区の4160エーカーで栽培開始  
 11月 日延運によるソバ買取拒否  
 12月 太平洋物産による70トンの種子買付が知らされる。  
 1月 同機省による集荷開始  
 3月～5月 中国経由による種子輸出

3月 氏原専門家を6月  
 JICA及び国境省による2002年度レビュー会議  
 Natif.局長及び専門家によるソバ栽培要調査  
 7月 栽培面積の決定  
 8月 種子・肥料配布、同時に栽培開始  
 10月 ソバ品質管理・食品加工トレーニングを実施  
 12月 集荷開始

12月31日 3専門家任期終了

## ケン栽培からの収入\*

### ケンを自分の畑で栽培

平均的収量：1エーカー当リアヘン約3.2kg=2 viss(ゴカン地区での平均的な畑)

アヘンの村落レベル取引価格：1kg=約2-3000元前後

年間ケン栽培から得られるエーカー当り収入=約6400~9600元

(US\$800~1200)

### 土地を借りて小作をした場合

通常得られたケンの半分を小作  
が得る。

### ケン農家で働いた場合

1人・20元/日×90日間=1800元

(US\$225)

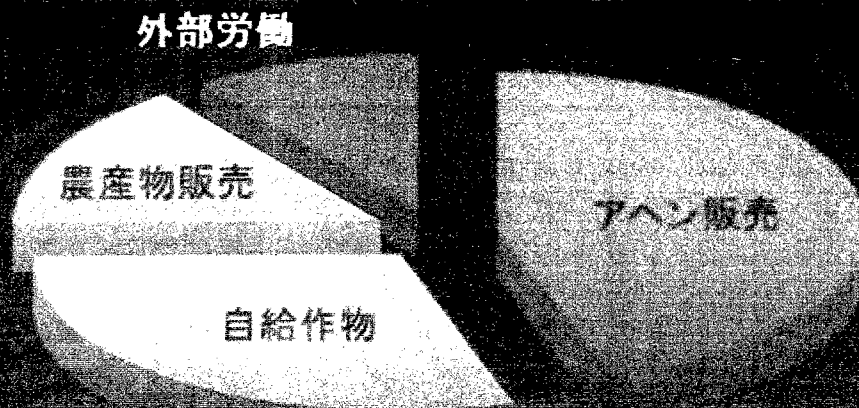


## ミャンマーの麻薬問題

- 国内外への流出(世界規模の麻薬禍)
- 麻薬産業・ヤミ経済の繁栄
- 少数武装グループの資金源



# 平均的ケシ農家の収入源\*



# ケシ農家の支出

